

咽中灸癰の臨床

群馬リハビリテーション病院
内科・リハビリテーション科
西 勝久

咽中灸癰は、梅核気ともよばれ、喉に何かがあるような感じがして、呑み込もうとしても呑み込めず、吐こうとしても吐けないという症状です。そのために、のど元がつまったような感じになったり、息苦しさを感じたりします。

漢方医学的病態は、気滞、気逆といった気の滞りが主体です。ただし、現代医学的には似たような症状を生じる疾患が多く存在するので、気滞であると診断する前に、現代医学的検査をしっかりと行い、現代医学的アプローチの方が適切である疾患ではないかどうかをきちんと鑑別しておくことが大切です。

咽中灸癰が漢方医学的病態で生じていると診断できれば、漢方薬と鍼灸治療、良導絡治療の出番です。気をめぐらす治療は、東洋医学でないと行えません。（現代医学には気は存在していません）

咽中灸癰を治療する際、鍼灸、良導絡治療で使用する経絡、経穴の概説と漢方薬、とくに咽中灸癰の特効薬とも言える半夏厚朴湯の証と使用法を解説致します。

日常臨床で、咽中灸癰の患者に出会ったら、本日の講義を思い出してみてください。